



<http://www.rupinasu-inc.co.jp/>

## ★最新介護医療情報★

**パ-キンソンに iPS 治験 世界初、脳に神経移植 京大、保険適用目指す 50 代男性患者**  
(共同通信社 H30.11.9 配信)

京都大は 9 日、人の人工多能性幹細胞(iPS 細胞)から神経細胞を作り、パ-キンソン病患者の脳内に移植する治験の 1 例目を 50 代の男性患者に実施したと発表した。iPS 細胞を使った再生医療はさまざまな疾患で計画され、京大によると、パ-キンソン病での治験は世界初。将来的な保険適用を目指す。iPS 細胞の患者への利用は、目の難病患者の網膜を再生する理化学研究所の世界初のケースに次ぐ。

主任研究者の高橋淳(たかはし・じゅん)教授は記者会見で「企業とも協力し、iPS 細胞から作った神経細胞を世界中に届けられるような量産態勢をつくりたい」と話した。

パ-キンソン病は脳内で神経伝達物質「ドーパミン」を出す神経細胞が減り、体のこわばりや手足の震えが起こる難病で、国内患者は推定約 16 万人。根本的な治療法はない。

治験は京大病院が京大 iPS 細胞研究所と連携して実施。現場の医師が主体となって安全性や有効性を検証する医師主導治験として進めている。計画では、京大が備蓄する、拒絶反応が起きにくい型の他人の iPS 細胞から作った神経細胞を脳に移植し、ドーパミンを出す神経細胞を補う。観察期間は 2 年間を想定。拒絶反応を抑えるため免疫抑制剤も投与する。

1 例目は 10 月に実施した。主に細胞移植により、脳内に腫瘍ができないかなどの安全性を確認するのが目的で、脳出血などの有害事象は確認されていないという。

治験の対象患者は 7 人。50～60 代で、薬物治療で十分な効き目がなく、5 年以上パ-キンソン病にかかっていることなどが条件となっている。

iPS 細胞の再生医療では、これまで理化学研究所などが、iPS 細胞から作った網膜の細胞を目に重い病気のある患者に移植する世界初の臨床研究を実施。大阪大は iPS 細胞から作った心筋細胞を重症心不全患者の心臓に移植しようと計画。京大は、血液成分「血小板」を難病貧血患者に輸血する臨床研究計画も進めている。

「朝食を抜くと体重が増える」勘ズムは体内時計の異常によるもの(名大、QLifePro 医療ニュース H30.11.7 配信)

名古屋大学は 11 月 1 日、朝食を抜くと体重が増える勘ズムは体内時計の異常であることを解明したと発表した。この研究は、同大学院生命農学研究科の小田裕昭准教授を中心とする研究グループによるもの。研究成果は「PLOS ONE」電子版に掲載されている。厚生労働省の平成 27 年国民健康・栄養調査では、20 歳代の 4 人に 1 人が朝食を食べていないと報告されている。朝食を抜くことは、肥満やメタリックシンドローム、2 型糖尿病、冠動脈心疾患の原因になるといわれている。しかし、これまでの研究は観察研究が多く、身体の中で起こる勘ズムは明らかにされていなかった。今回、研究グループは、実験用ラットに高脂肪食を 14 日間与える実験を実施。活動期のみ食餌を与える対照群と、4 時間遅らせて食餌を与える朝食欠食群を設けた。これは、人にあてはめると、朝 8 時に朝食を食べる人と、昼 12 時に最初の食事を食べる人にあたる。研究の結果、どちらも食餌摂取量は変わらなかったが、朝食欠食群は体重が増加し、脂肪組織重量が多くなっていったという。また、朝食欠食群では肝臓の時計遺伝子や脂質合成系の遺伝子の発現レベルにも、およそ 4 時間の遅れが生じていた。さらに、活動期に上がる体温は、朝食欠食群では食べ始めるまで上がらなかった。反対に、休息期に下がるはずの体温が、朝食欠食群では食事を食べている最中に低下。そのため、体温の上昇している時間が短くなっていったという。これにより、朝食欠食では肝臓時計のずれや体温時計などの体内時計の異常によって活動期が短くなり、I 補給をあまり消費しないため、体重増加を引き起こすことが明らかになったとしている。

今回の研究は、朝食欠食による体内時計の乱れが原因で起きることを遺伝子レベルで明らかにしたものの。この結果は、朝食を勧める際の科学的根拠になる。また、朝食は体内時計の正常化にとって、最も重要な食事であることを示すことができた。朝食をとることで、メタリックシンドロームや生活習慣病の予防も期待される、と研究グループは述べている。

## 地域ルピナス講習会のお知らせ

### 第 33 回忠岡地域リハビリ勉強会

⇒訪問におけるリハビリと看護の必要性について

開催日：平成 31 年 2 月 15 日(金)

時間：午後 6 時 30 分～午後 7 時 30 分

場所：忠岡町文化会館 地下 1 階会議室

講師：ルピナス理学療法士 多田大樹

ルピナス理学療法士 池辺晃子

### 第 22 回城東地域リハビリ勉強会

⇒パ-キンソン病の摂取・嚥下 - 理学療法士の視点 -

開催日：平成 31 年 2 月 16 日(土)

時間：午後 6 時 00 分～午後 7 時 00 分

場所：城東区民センター 小会議室 3

講師：ルピナス理学療法士 出口直弥



### 第 62 回東大阪地域リハビリ勉強会

⇒パーキンソン病に対しての歩行介助のポイント

開催日：平成 31 年 2 月 21 日(木)

時間：午後 6 時 00 分～午後 7 時 00 分

場所：東大阪市立東体育館 第三研修室

講師：ルピナス理学療法士 出口直弥

